

ThreeBond



2025 ALL JAPAN

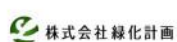
SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP

RACE REPORT



Round.3-4

MOBILITY RESORT
MOTEGI



初夏のもてぎ 苦難の週末

全日本スーパーフォーミュラ選手権の本年度2大会目となる第3戦及び第4戦が、4月18日(土)～20日(日)にかけ、栃木県の実験地帯もてぎで開催された。

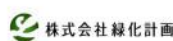
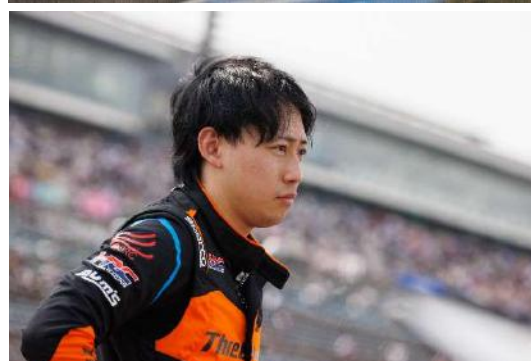
前回の鈴鹿大会では、第1戦で勢い余ってコースアウトしてしまい、翌日の第2戦も車両を壊してしまった余波を受け、結果が残せなかったが、一定の知見を得ることができた。今回は鈴鹿大会で得たデータを基にして、もてぎのコースレイアウトに合わせた調整を行い、車両を持ち込んだ。

もてぎ大会は昨年まで真夏の8月に開催されていたが、本年は晩春での開催となり、気温や路面温度の違いをいかに受け止めるかが課題になると思われた。だが、週末のもてぎは快晴となり、気温23度、路温40度にも達する初夏さながらの状況でのレースとなった。



金曜日フリープラクティス

金曜日に1時間ずつ計2回行われたフリープラクティス(FP)を走り始めた三宅選手のラップタイムは、想定よりも上がらず、チームは急遽セッティングを見直しながら周回を重ねた。しかし経験の多い一瀬トラックエンジニアにとっても、車両は不可解な反応しか示さず、出走した22台中FP1回目は14番手、FP2回目では20番手と、ポジションが伸び悩んだまま公式予選を迎えることになった。



Round.3 公式予選

翌 19 日(土)もモビリティリゾートもてぎは快晴。三宅選手は午前 9 時 35 分から始まった公式予選 Q1B 組に出走した。

公式予選に向け、チームは大幅にセッティングを変更し三宅選手をコースに送り込んだが、車両の操縦性は好転せず、三宅選手のラップタイムは Q1B 組トップから 1 秒 344 遅れとなる 1 分 32 秒 875 に留まり、Q1B 組での出走 11 台中 11 番手に終わり、Q2 進出は叶わなかった。Q2 の結果を受けて、最終的に三宅選手のスターティンググリッドは、出走 22 台中 21 番グリッドからに決まった。

Round.3 決勝

14時50分、快晴の下で第3戦の決勝レースがスタートした。三宅選手はクラッチミートで一瞬加速が鈍り、後方10号車Juju選手の先行を許した。しかしその後加速し1コーナーアウト側から20号車高星選手をオーバーテイク。スタートに失敗した19号車小林選手、コースオフした64号車佐藤選手、2コーナー先で車両を止めた39号車大湯選手の前へ出た。ここで停止車両を回収するためセーフティカー(SC)がコースインした。この時点で三宅選手は18番手となっていた。

レースは4周目で再開されたが三宅選手のペースは上らず、レース中200秒間にわたりパワーアップができるオーバーテイクシステム(OTS)が作動しないというトラブルが発生。前の車両をオーバーテイクすることも、後の車両からのオーバーテイクを防ぐことも困難な状況に陥ってしまった。

4周目でレースが再開された際、OTSを使った後方車両2台にオーバーテイクを許しポジションは20番手となり、7周目にOTSを使わず10号車Juju選手を抜いて19番手に順位を上げるも、OTSが使えないため、前を走る20号車高星選手のオーバーテイクには至らない。タイヤ交換が可能となる10周目に上位陣がピットインしたが、三宅選手はOTSが使用できないため、同じタイミングでのピットインでは順位を上げられないと判断し、チームはピットインを遅らせる作戦を指示する。(次ページへ続く)



Pos	No	氏名/予選タイム
1	5	牧野 任祐 /1' 31.172
2	6	太田 格之進 /1' 31.302
3	65	イゴール・オオムラ・フラガ /1' 31.306
21	12	三宅 淳詞 /1' 32.875



しかし、三宅選手はトップ争いを邪魔したくないとして、11周目でのピットインを決意。ピットでタイヤ交換を行い、18番手でコースに復帰した。その後、18周目にタイヤ交換のためピットインした19号車小林選手を抜いて17番手に上がった。

28周目には前方を走っていた15号車岩佐選手がコース上で停止したため三宅選手のポジションは16番手に繰り上がったが、29周目に19号車小林選手が追いつき、オーバーテイクを許して17番手となり、そのまま33周を走り切りレースを終えた。

Round.4 公式予選

翌 20 日(日)のモビリティリゾートもてぎは、薄く雲がかかり、蒸し暑い気候となった。前日の結果を踏まえて、チームは今まで手を出していなかった領域にまで踏み込み、セッティングを変更。第 4 戦に備えた。

公式予選 Q1B 組を走り出した三宅選手は、車の操縦性改善を感じ取るもタイムは伸びず、Q1B 組のトップから 1 秒 007 遅れの 1 分 33 秒 202 となり、出走 11 台中 10 番手で Q2 進出はならなかった。

Q2 の結果を踏まえ、最終的に三宅選手の第 4 戦決勝レースのスターティンググリッドは、20 番グリッドからと決まった。



Pos	No	氏名/予選タイム
1	3	山下 健太 /1' 31.399
2	6	太田 格之進 /1' 31.903
3	5	牧野 任祐 /1' 31.963
20	12	三宅 淳詞 /1' 33.202



Round.4 決勝

午後2時55分、気温20℃、路温24℃と、前日より低い温度コンディションで37週の第4戦決勝レースがスタートした。

このレースでは今シーズンからの規則変更により、従来できなかったスタート直後のタイヤ交換義務消化が可能となっている。

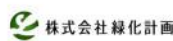
三宅選手はスターティンググリッドからフォーメーションラップを始めようとしたがエンジンがストールしてしまい、再始動後に改めてフォーメーションラップに入ったものの、規則により最後尾スタートとなってしまった。

スタート直後、三宅選手は鋭い加速を見せ、10号車Juju選手と29号車平良選手の間に飛び込んで順位を上げ、1コーナーに進入しながら、前を行く20号車高星選手の前へ出ようとした。ところがイン側後方から29号車が20号車に追突、そのまま三宅選手の車両のノーズに接触しながらコースアウトした。三宅選手はコースアウトし、フロントウイングを壊しながらも、走行を続けた。

ここでコースアウトした車両の回収のためSCが導入されたがタイヤ交換義務の消化は1周目から可能となっているため、上位陣は一気にピットへ向かった。車両破損が無ければ、上位陣とは異なる戦略を採る選択肢もあったが、車両の操縦性に異常を感じていた三宅選手は上位陣と同じタイミングでピットインせざるを得なかった。

ピットでチームはタイヤに加えてノーズコーンの交換を行い、三宅選手をコースへ送り返した。三宅選手は19番手でコースに復帰したが6周目にSCが退去しレースが再開されると、ポールポジションからスタートし、ピットイン後のタイヤ脱落により遅れていた3号車山下選手が追いついてきて、オーバーテイクを許したので、ポジションは20番手となった。

その後、三宅選手はギアのトラブルで遅れた1号車坪井選手と19号車小林選手、28号車小高選手の前へ出て、16番手まで順位を上げた。しかし30周目にはフレッシュタイヤを装着した28号車小高選手、32周目には8号車福住選手に抜き返され、最終的には18位でレースをフィニッシュすることになった。



ドライバー:三宅淳詞 コメント

前戦の鈴鹿では成績は残せませんでしたが、ロングランでは良い感触が得られていました。今回のもてぎは鈴鹿とコースレイアウトも違いますし、例年開催される季節とも違うということ踏まえ、チームと打ち合わせを行いました。鈴鹿で良かったところをセッティングに反映させ持ち込んだのですが、走り出しから上手く走れず、ラップタイムが上がりました。原因が分かれば何とか対処できますが、全く原因が分からないというのが現状です。この週末、車のセッティングを様々変更し、良くも悪くも挙動は変わりましたが、どうしてもタイムが伸びず順位を上げられませんでした。昨年より明らかに車は良くなっているのに、ラップタイムにつながらない原因を、早く見つけないといけないと考えています。次の大会に向け、諦めずに頑張ります。



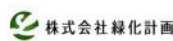
監督:塚越広大 コメント

前戦の鈴鹿で良かったところもあったので、その流れでもてぎ大会に向けた準備を行いました。実際にフリー走行では手応えがあったのですが、そこから本番に向けて車を良くすることができず、むしろ少し悪くなってしまいました。セッティングも色々確認したり、変更したりしましたが、なかなか良い改善策が見つからないまま 2 レースが終わりました。全体的なパフォーマンスが足りず、正直なところ悩ましい週末でした。次戦オートポリスに向け、エンジニアとしっかりと話して、最初から各部位のチェックをやり直し、対策と準備をした上でレースウィークに臨みます。



トラックエンジニア:一瀬俊浩 コメント

鈴鹿大会でのクラッシュ後、車を仕立て直して良い状態に仕上げ、今回は上位争いができるように、去年のもてぎで悪かった部分を直して持ってきました。しかし、フリー走行を走り出したところ、全くタイムが上がらず苦戦しました。第3戦ではOTSが使えず、追い抜きの防御もできずに順位が下がってしまいました。更に先行車の乱気流を受ける位置でペースも上がらず、かなり辛いレースになってしまい、ドライバーには申し訳無く思っています。第4戦はスタート前からエンジンが止まってしまったり、スタート直後に後ろから接触されてしまったりと、流れがつかめませんでした。他にも接触の影響でブレーキのダクトが破損するなど様々な要因はありましたが、根本的な問題は解決できないままの週末でした。とにかく一度全てを見直して、次戦のオートポリスはまずはQ1通過を目指し、準備していきたいと思っています。





Round.3 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	55' 54.595
2	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	55' 57.251
3	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	55' 58.367
4	1	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	56' 04.343
5	8	福住 仁嶺	Kids com Team KCMG	56' 09.528
6	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	56' 13.702
7	3	山下 健太	KONDO RACING	56' 15.938
8	37	サッシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	56' 18.195
9	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN	56' 27.367
10	14	大嶋 和也	docomo business ROOKIE	56' 27.592
11	7	野中 誠太	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	56' 28.676
12	4	ザック・オサリバン	KONDO RACING	56' 29.361
13	29	平良 響	KDDI TGMGP TGR-DC	56' 32.120
14	50	小出 峻	San-Ei Gen with B-Max	56' 38.577
15	20	高星 明誠	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	56' 43.193
16	19	小林 利徠斗	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	56' 45.762
17	12	三宅 淳詞	ThreeBond Racing	56' 52.491
18	28	小高 一斗	KDDI TGMGP TGR-DC	56' 53.249
19	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	57' 03.985
	15	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN	6Laps 遅れ
	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	DNF
	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	DNF





Round.4 レース結果

Pos	No	Driver	Team	Time
1	6	太田 格之進	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:04' 16.052
2	5	牧野 任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:04' 20.721
3	15	岩佐 歩夢	TEAM MUGEN	1:04' 21.446
4	37	サツシャ・フェネストラズ	VANTELIN TEAM TOM'S	1:04' 42.526
5	38	阪口 晴南	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:04' 43.535
6	14	大嶋 和也	docomo business ROOKIE	1:04' 44.723
7	39	大湯 都史樹	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	1:04' 45.813
8	7	野中 誠太	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	1:04' 47.538
9	65	イゴール・オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING	1:04' 48.232
10	16	野尻 智紀	TEAM MUGEN	1:04' 50.293
11	4	ザック・オサリバン	KONDO RACING	1:04' 51.232
12	64	佐藤 蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	1:04' 51.453
13	3	山下 健太	KONDO RACING	1:04' 55.334
14	50	小出 峻	San-Ei Gen with B-Max	1:04' 55.867
15	28	小高 一斗	KDDI TGMGP TGR-DC	1:04' 56.432
16	8	福住 仁嶺	Kids com Team KCMG	1:04' 59.952
17	10	ジュジュ	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	1:05' 11.949
18	12	三宅 淳詞	ThreeBond Racing	1:05' 13.894
19	20	高星 明誠	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	1:05' 14.536
	1	坪井 翔	VANTELIN TEAM TOM'S	5Laps 遅れ
	19	小林 利徠斗	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	12Laps 遅れ
	29	平良 響	KDDI TGMGP TGR-DC	DNF





Drivers & Team Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			鈴鹿	鈴鹿	もてぎ	もてぎ	AP	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	太田 格之進	61	1+20	1+0	2+15	2+20								
2	牧野 任祐	60	1	20	3+20	1+15								
3	岩佐 歩夢	41	2+15	2+11	0	11								
4	坪井 翔	31	8	15	8	0								
5	野尻 智紀	21	3+4	3+8	2	1								
6	イゴール・オオムラ・フラガ	20	0	6	1+11	2								
7	佐藤 蓮	16	11	5	0	0								
8	阪口 晴南	16	5	0	5	6								
9	サッシャ・フェネストラズ	11	0	0	3	8								
10	山下 健太	9	2	0	4	3+0								
⋮														
-	三宅 淳詞	0	0	0	0	0								

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10	Rd.11	Rd.12
			鈴鹿	鈴鹿	もてぎ	もてぎ	AP	富士	富士	SUGO	富士	富士	鈴鹿	鈴鹿
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	111	1+20	20+0	20+15	15+20								
2	TEAM MUGEN	52	15+4	11+8	0+2	11+1								
3	VANTELIN TEAM TOM'S	42	8+0	15+0	8+3	0+8								
4	PONOS NAKAJIMA RACING	35	11+0	5+6	0+11	0+2								
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	24	5+0	0+4	5+0	6+4								
6	Kids com Team KCMG	17	6+0	2+0	0+6	3+0								
7	KONDO RACING	9	2+3	0+0	4+0	0+0								
8	docomo business ROOKIE	7	0	1	1	5								
9	San-Ei Gen with B-Max	3	0	3	0	-								
-	HAZAMA ANDO Triple Tree Racing	0	0	0	0	0								
-	ThreeBond Racing	0	0	0	0	0								
-	ITOCHU ENEX WECARS TEAM IMPUL	0	0+0	0+0	0+0	0+0								
-	KDDI TGMGP TGR-DC	0	0+0	0+0	0+0	0+0								

